

平成 28 年度 「新入社員 意識調査」

栃木県及びその周辺の新入社員はますます堅実、現実的。“ドローン型”というより、足元を見て着実に進もうとする“徒歩型”。

※ “ドローン型”とは日本生産性本部命名の今年度の新入社員のタイプ

<ポイント>

1. 就職活動の傾向 人手不足を受けて「売り手市場」に

- ◇ 新卒者の訪問企業数は「1～2社」が平成24年度にこの設問を加えて以来最も多い回答となり、企業の人手不足を受けて学生優位の「売り手市場」となった様子がみられた。
- ◇ 就職活動時期が後ろ倒しとなり混乱必死の“就活”であったが、内定が最初に出た時期は例年同様「2015年秋頃」が最も多く、次いで「2015年夏より前」の順。わずかに「秋頃」が増えた程度で大きな変化はなかった。

2. 新入社員の傾向 リーマンショック後の就職氷河期に並ぶ“堅実さ”

- ◇ 会社を選ぶ基準では1位の「自分が働きたい業界・業種」が22年度の調査開始以来最も低くなり、条件重視の傾向がみられた。特に女性は「休日が多い」「給料が多い」「福利厚生がいい」が増加し堅実。「休日が多い」を選んだ男性も2年連続2割超えとなった。
- ◇ 働く目的では、例年最も多い「収入を得ること」がさらに増加し、過去最高だった22年度に次ぐ数字となった。1位の「収入を得ること」以外の「自己の成長」「社会貢献」といった項目は「その他」を除き、すべて昨年を下回る結果となった。
- ◇ 出世については、課長・店長等のリーダー職以上を目指す新入社員は男女共に減少。「平社員のままがいい」は22年度に次いで2番目、「係長ぐらい」は過去最高となった。
- ◇ 女性活躍推進の機運が高まる中、「いずれは家庭に入りたい」という女性は22年度の調査開始以来最も少なくなり、働き続けたいと考える女性が増加。出世については「平社員のままがいい」と「部長ぐらい」が増加しており、女性の働き方は二極化していく傾向がみられる。

<調査方法>

- (1) 調査期間 : 平成28年3月28日～4月22日
- (2) 調査対象 : あしぎん新入社員セミナー受講生、新入社員向け出張研修受講生
(セミナー開催回数 栃木県8回、群馬県1回、埼玉県1回、出張研修5回)
- (3) 有効回答数 : 645名 (回答率 99.7%)

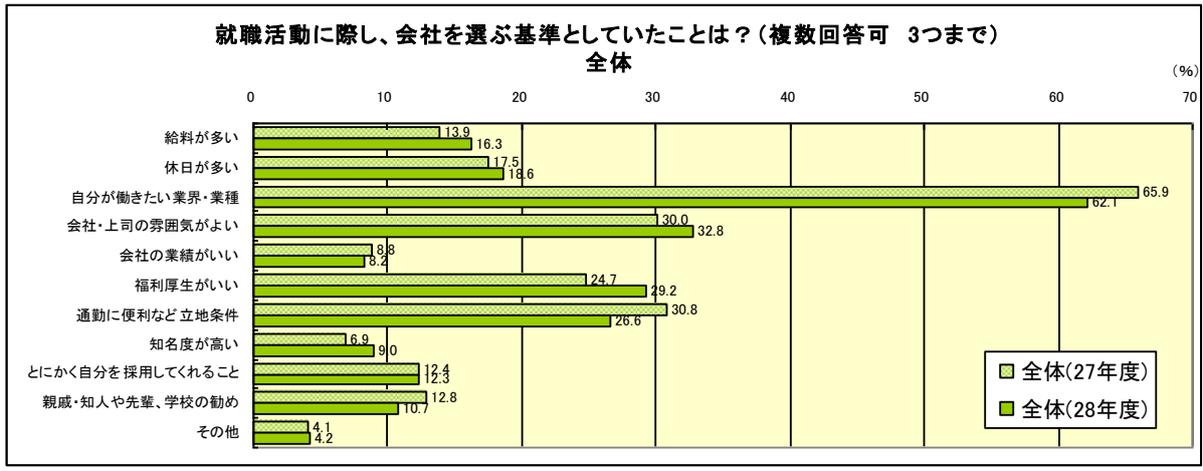
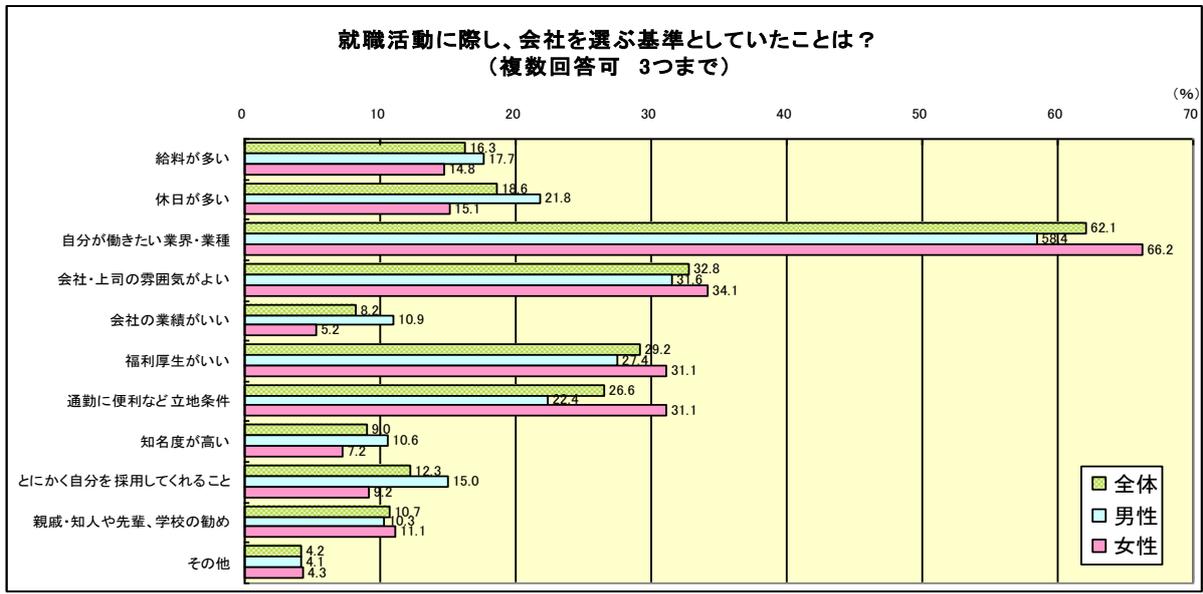
内 訳 : 男性 340名、女性 305名

大学・大学院 39.7%、高専・短大・専門学校 12.9%

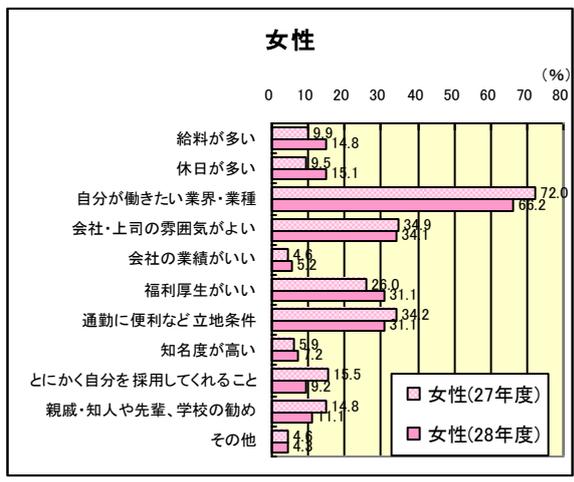
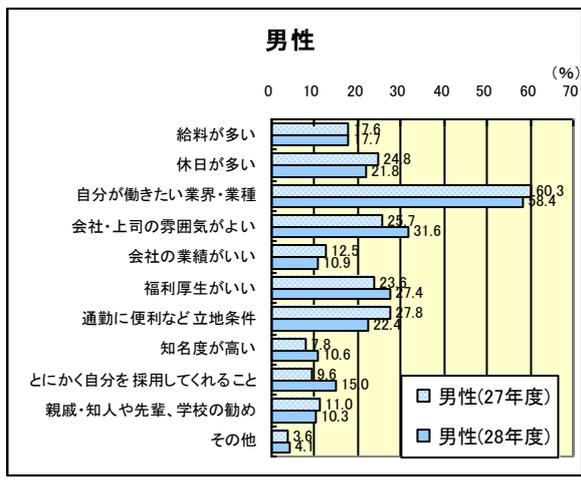
高校 28.1%、中途採用、その他 19.4%

1. 就職活動に際し、会社を選ぶ基準としていたことは？

「自分が働きたい業界・業種」が 62.1%と圧倒的に多く、次いで「会社・上司の雰囲気がよい」32.8%、「福利厚生がいい」29.2%、「通勤に便利など立地条件」26.6%の順。傾向は例年同様だが、1位の「自分が働きたい業界・業種」は22年度の調査開始以来最も低く、条件重視の様子がみられた。

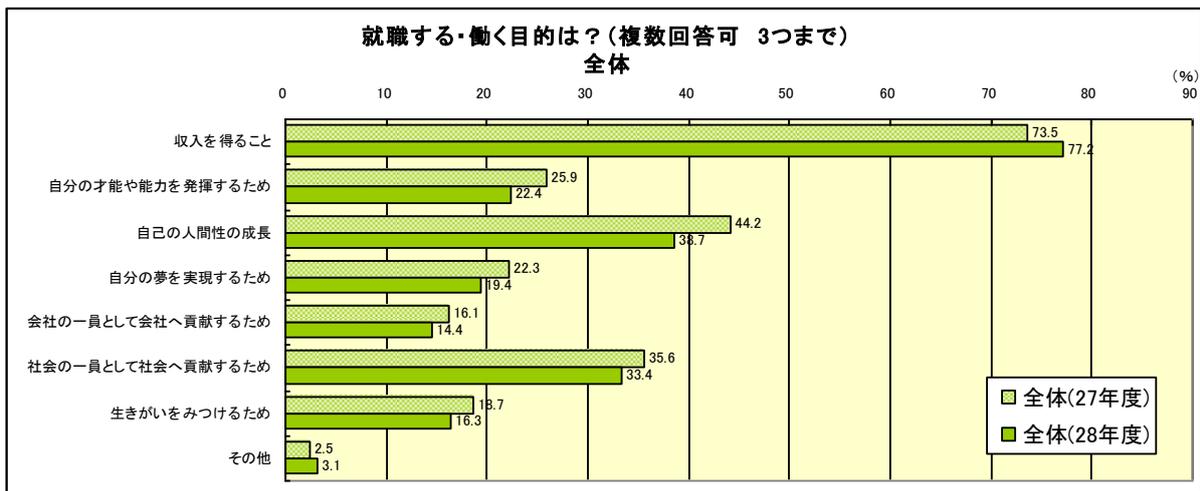
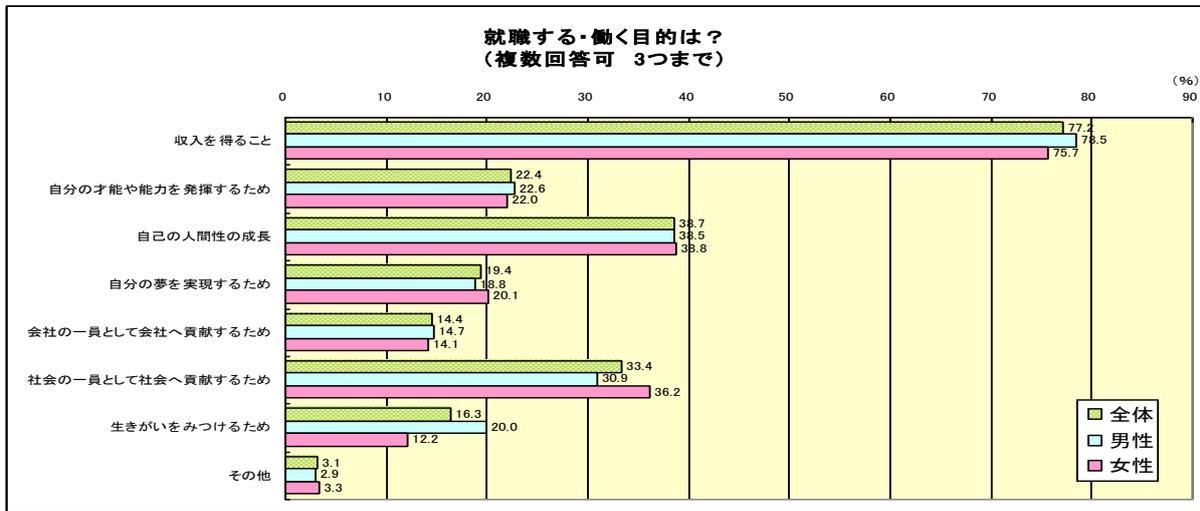


条件重視の傾向は特に女性にみられ、「休みが多い」「給料が多い」「福利厚生がいい」が増加。「休みが多い」を選んだ男性も2年連続2割を超えた。

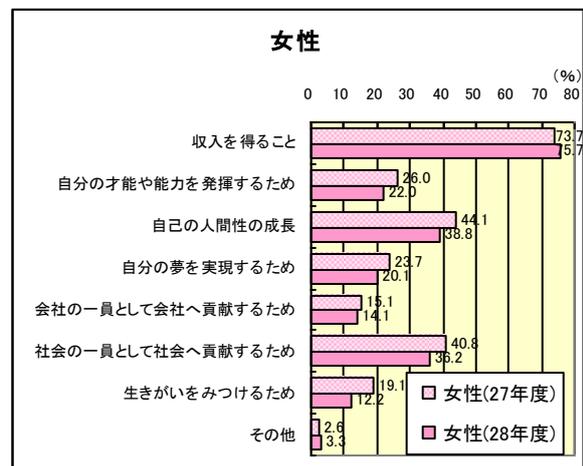
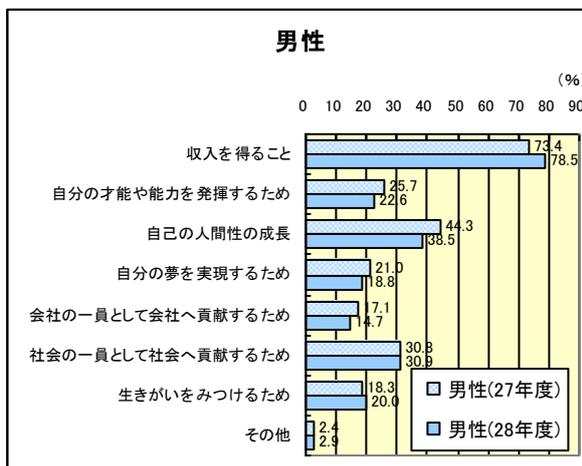


2. 就職する・働く目的は？

例年最も多い「収入を得ること」が増加し77.2%となり、過去最高だった22年度の78.0%に次ぐ数字となった。次いで「自己の人間性の成長」38.7%、「社会の一員として社会へ貢献するため」33.4%の順。1位の「収入を得ること」以外の項目は「その他」を除き、すべて昨年度を下回る結果となった。

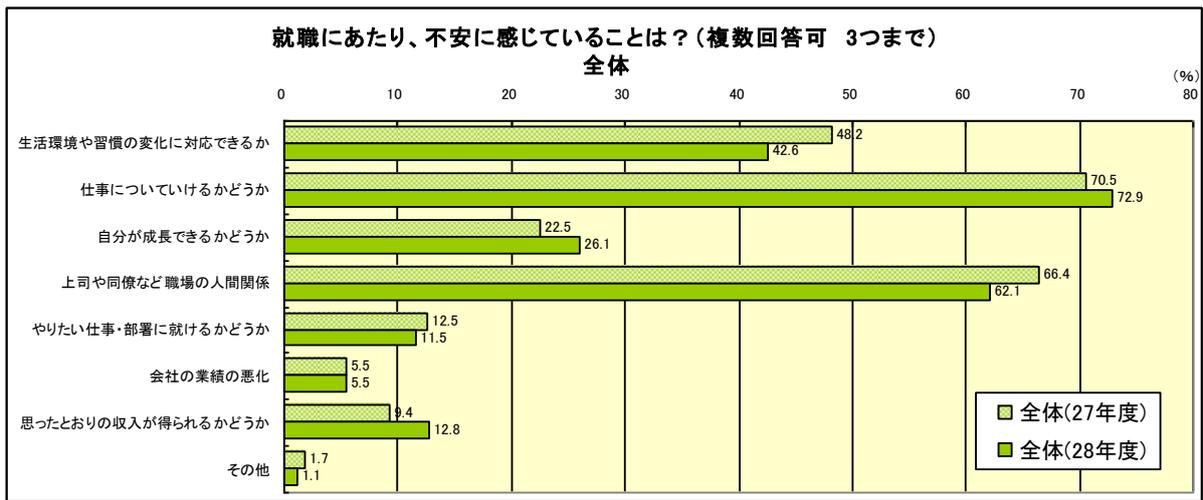
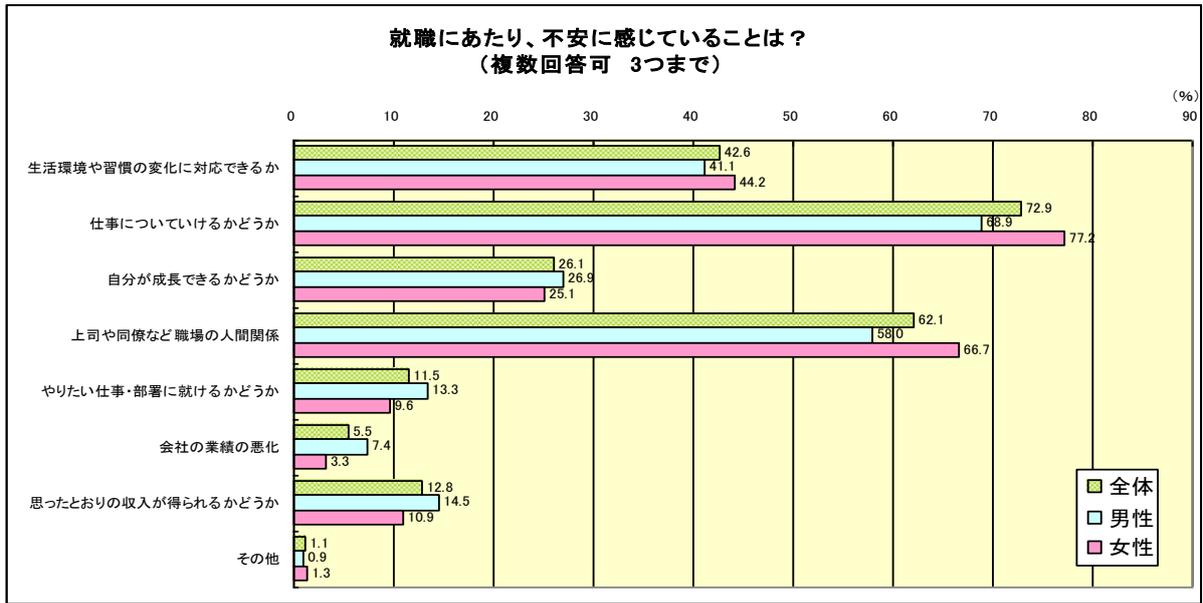


女性は「収入を得ること」と「その他」の項目以外はすべて昨年度を下回った。特に「生きがいを見つけるため」「自己の人間性の成長」「社会の一員として社会へ貢献するため」などが大きく減った。

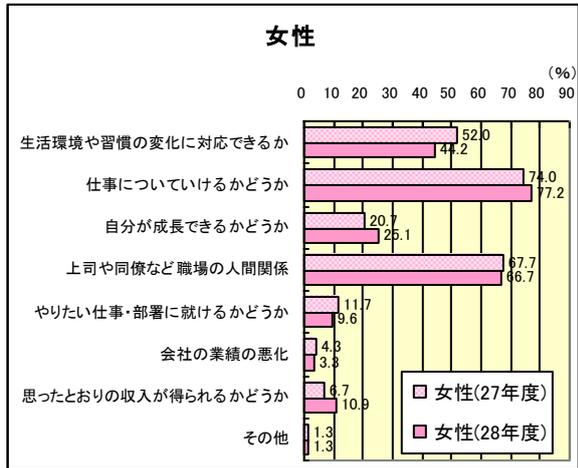
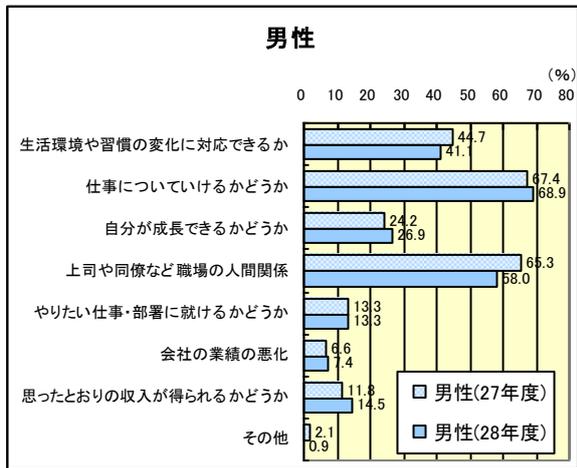


3. 就職にあたり、不安に感じていることは？

「仕事についていけるかどうか」が72.9%と最も多い。次いで多かったのは「上司や同僚など職場の人間関係」62.1%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」42.6%の順で、例年同様の結果となった。

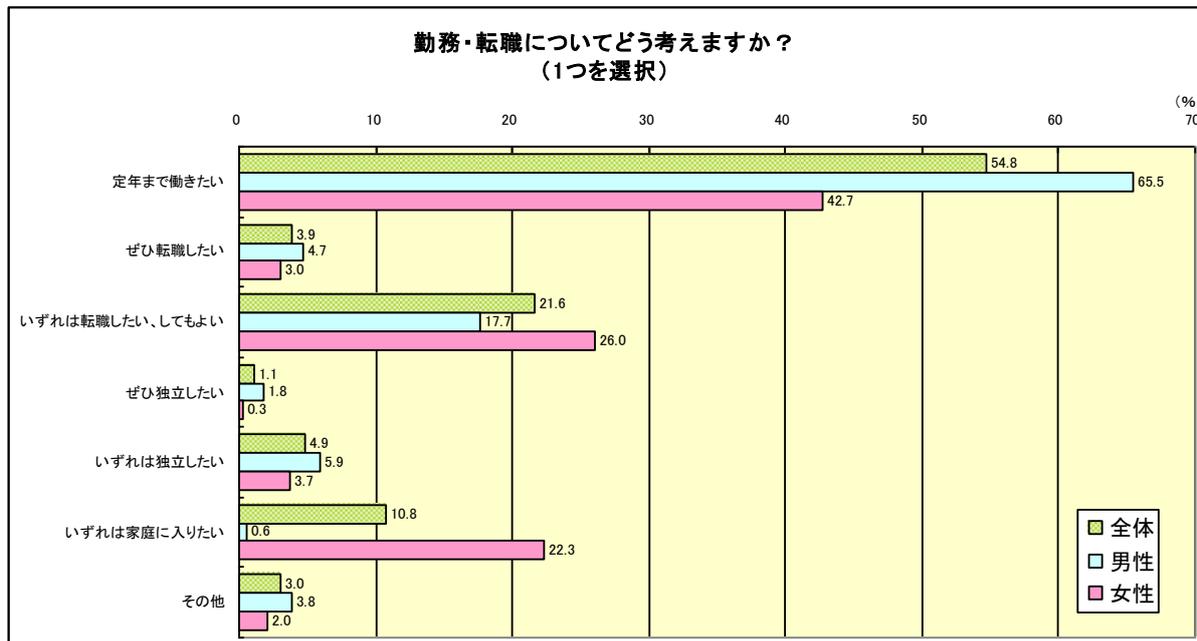


男女別で差がみられたのは「上司と同僚などの職場の人間関係」「仕事についていけるかどうか」で、両方とも女性の回答が多かった。「会社の業績悪化」「やりたい仕事・部署に就けるかどうか」「思ったとおりの収入が得られるかどうか」は男性の回答が多かった。

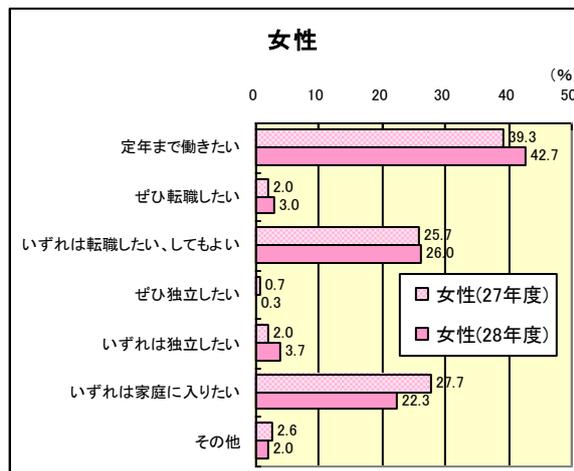
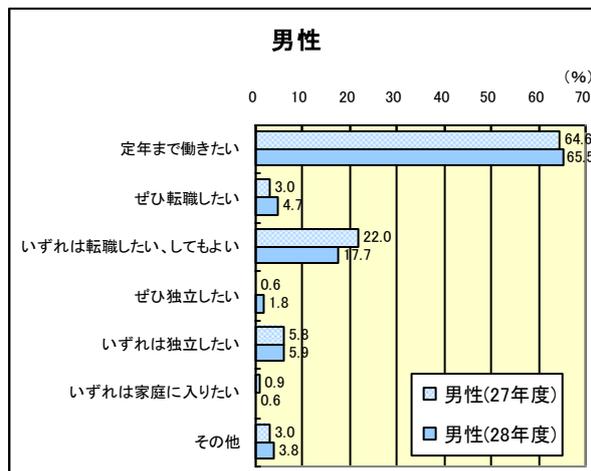
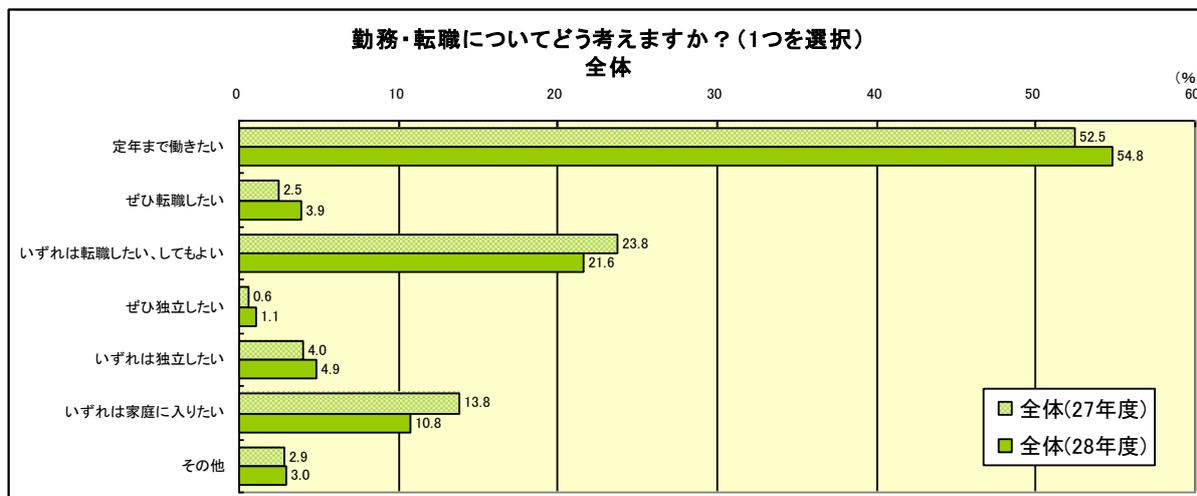


4. 勤務・転職等についてどう考えるか？

「定年まで働きたい」が例年同様最も多く 54.8%。次いで「いずれは転職したい、してもよい」21.6%、「いずれは家庭に入りたい」10.8%の順で、全体に昨年度と同様の結果となった。

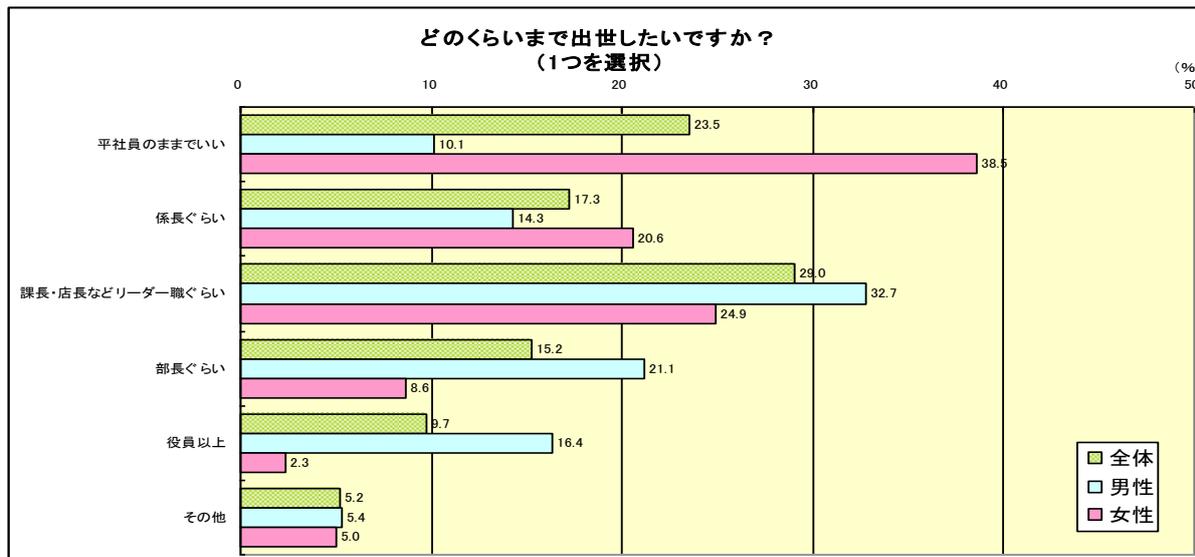


「いずれは家庭に入りたい」という女性は、22年度の調査以来最も少なく 22.3%。女性の働くことへの意識に変化がみられた。

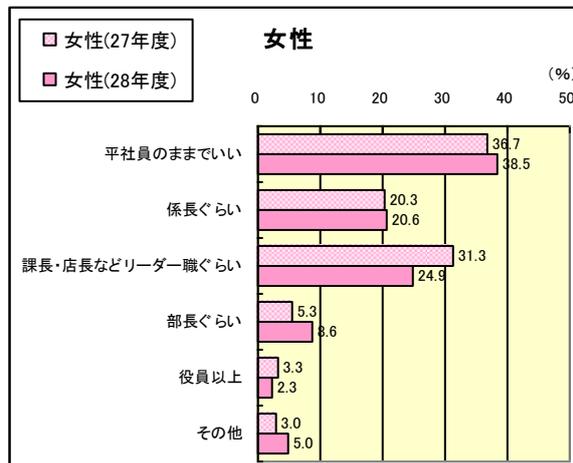
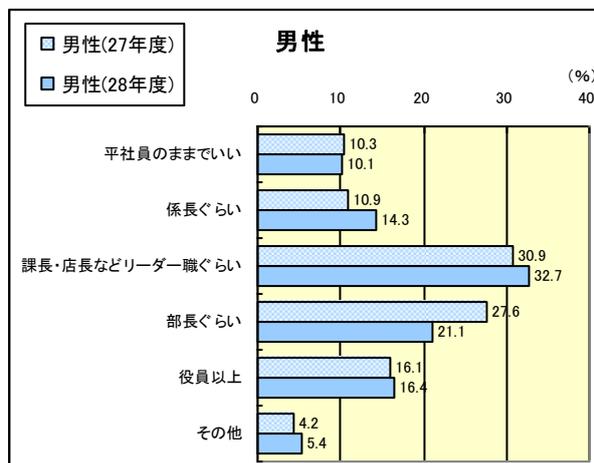
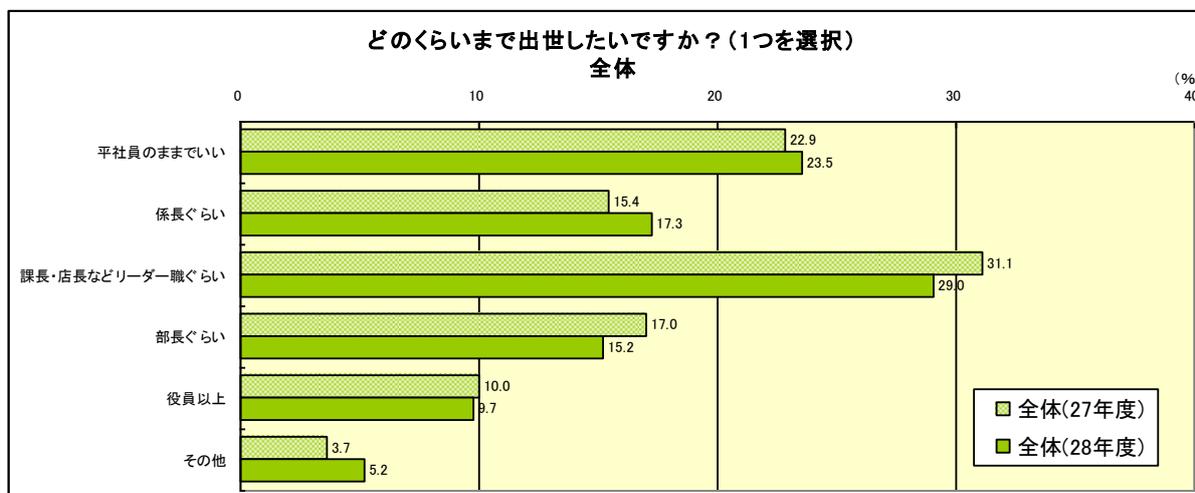


5. どのくらいまで出世したいか？

課長・店長等のリーダー職以上を目指す新入社員は男女共に減少し、男性は70.2%（前年74.6%）、女性は35.8%（同39.9%）となった。「平社員のみままでいい」は22年度の26.9%に次いで2番目、「係長ぐらい」は過去最高となった。

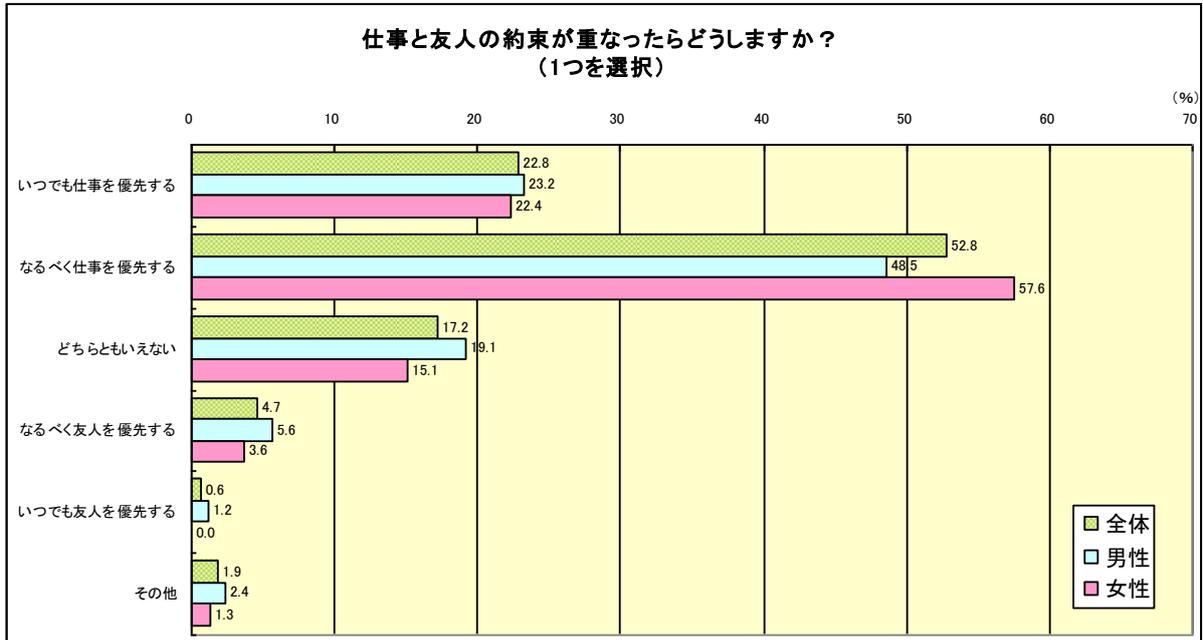


男女別では男性が「部長ぐらい」が減り「係長ぐらい」「課長・店長などリーダー職ぐらい」が増加、出世はほどほどでいいという様子。女性は「平社員のみままでいい」と「部長ぐらい」が増加。「部長ぐらい」は8.6%と少ないが過去最高となり、女性の働き方は二極化していく傾向がみられる。

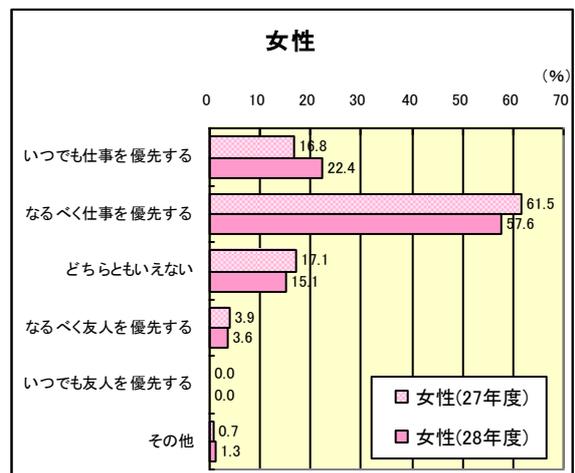
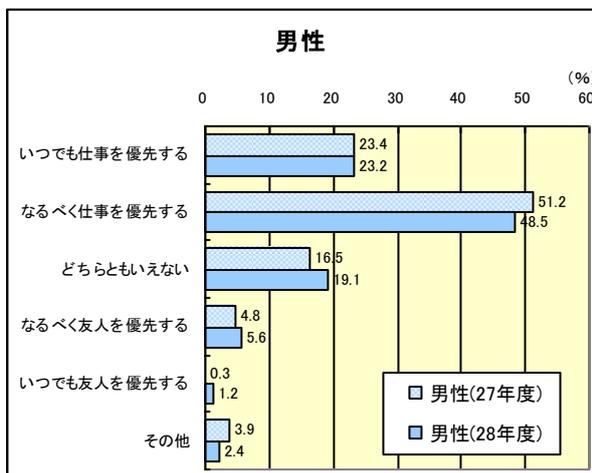
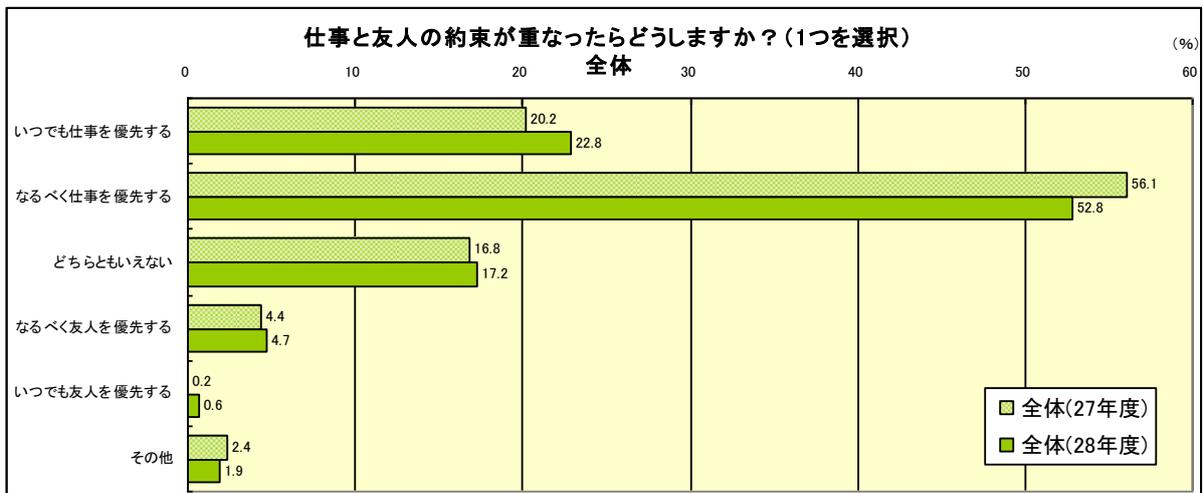


6. 仕事（残業など）と友人の約束（食事や飲み会など）が重なったらどうするか？

「なるべく仕事を優先する」が52.8%と最も多く、次いで「いつでも仕事を優先する」が22.8%、合計すると75.6%となり、例年同様、友人の約束よりも「仕事を優先」派が多い。



男女別では「いつでも仕事を優先する」「なるべく仕事を優先する」の仕事優先派は女性80.0%、男性71.7%と例年同様、女性が上回っている。



7. あなたが今、興味のあるもの、関心の高いものは何か？

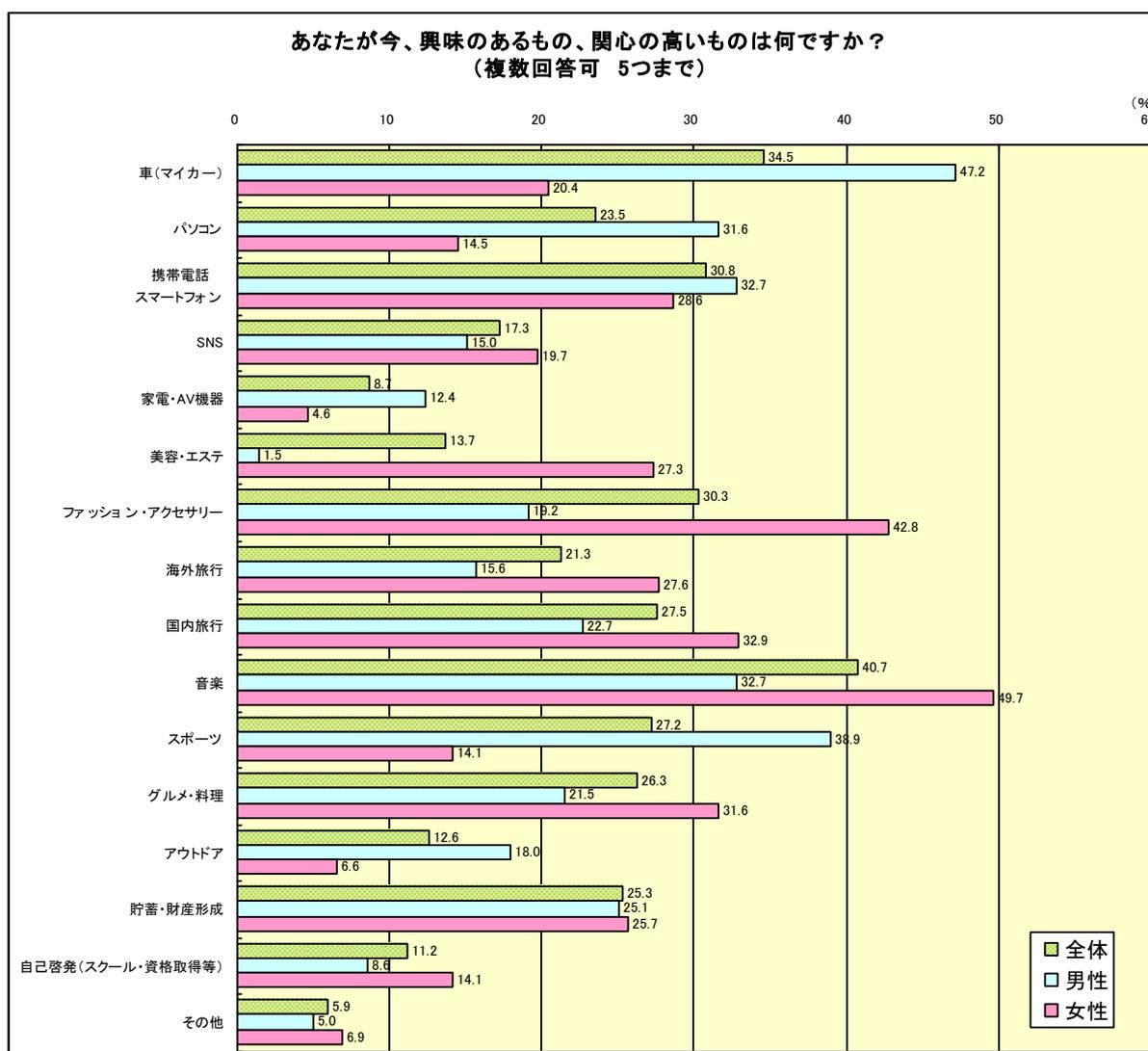
男性のベスト5は昨年度と変わらないが、1位の「車（マイカー）」は22年度の調査開始以来最も少なくなり、代わって「携帯電話・スマートフォン」が過去最高となり3位に浮上した。女性でも「携帯電話・スマートフォン」が初めてベスト5入りした。また、女性では「音楽」が大きく伸び1位となった。

<男性>

①車（マイカー）	47.2%	（昨年度比－1.3）
②スポーツ	38.9%	（－1.0）
③音楽	32.7%	（－4.2）
③携帯電話・スマートフォン	32.7%	（＋0.7）
⑤パソコン	31.6%	（－1.6）

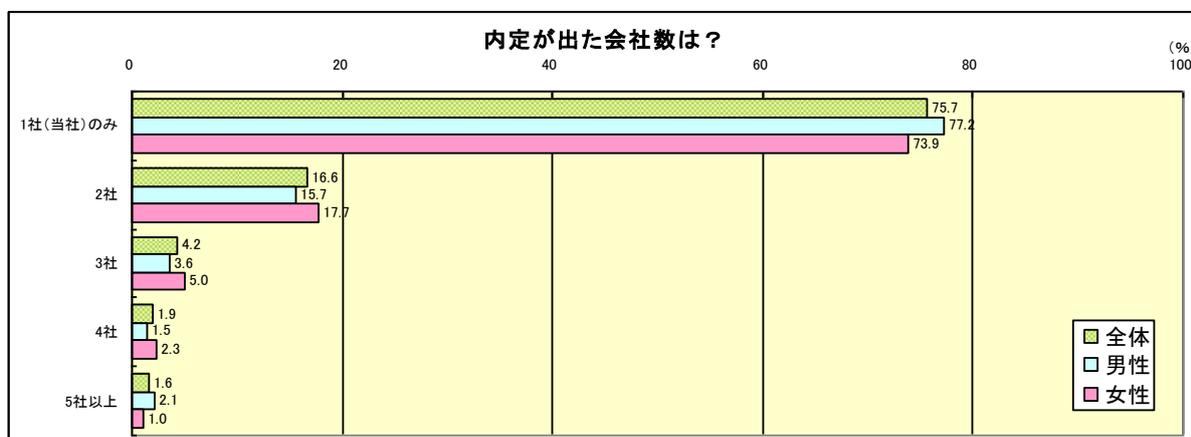
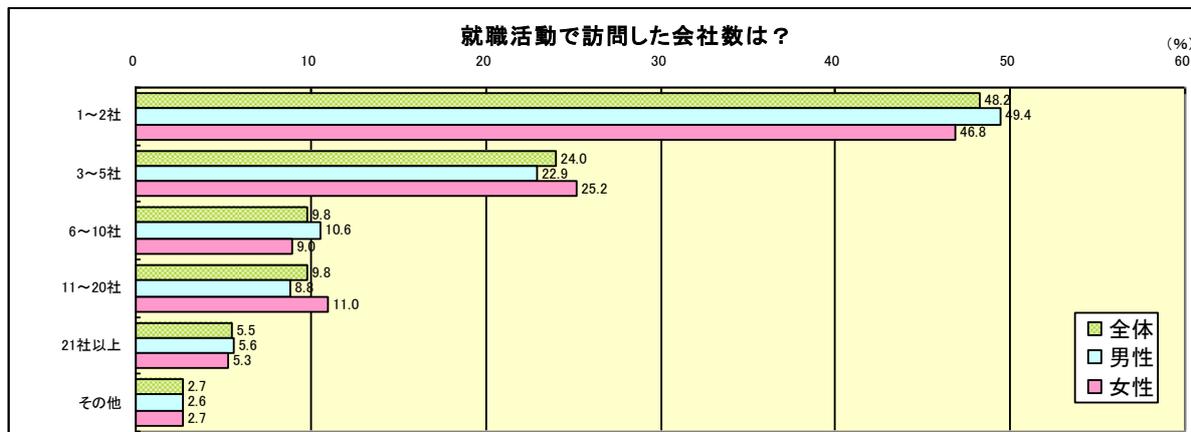
<女性>

①音楽	49.7%	（昨年度比＋6.9）
②ファッション・アクセサリ	42.8%	（－5.9）
③国内旅行	32.9%	（＋1.6）
④グルメ・料理	31.6%	（－7.5）
⑤携帯電話・スマートフォン	28.6%	（＋1.0）

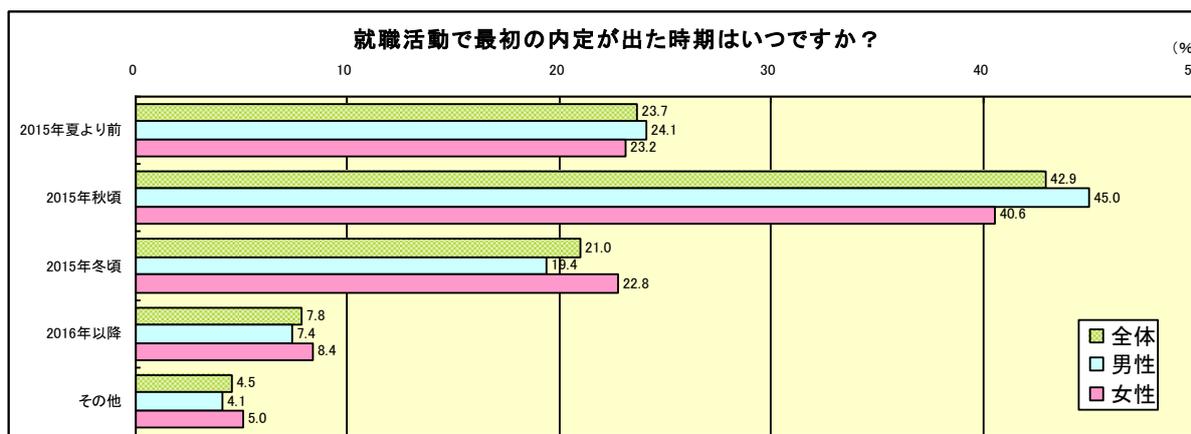


8. 新卒者の就職活動の状況について

新卒者の訪問企業数（会社説明会を含む）は、「1～2社」が最も多く48.2%で、24年度にこの設問を加えて以来最も多い回答となり、売り手市場となった様子が表れている。（24年37.5%、25年40.7%、26年39.0%、27年46.9%）



内定企業数は例年どおり「1社（当社のみ）」が圧倒的に多い。就職活動の後ろ倒しが行われたが、内定が最初に出た時期は例年どおり「2015年秋頃」が最も多く、次いで「2015年夏より前」「2015年冬頃」以降の順となった。



以上